

株式会社エージーピー 2019年度決算説明



空を想い、技術を極め、環境社会を創る。

2020.5.21

1. 2019年度 業績概要	p3
2. 2020年度での当面の経営方針	p13
(参考資料)	p16

2019年度 業績概要

- FY19の業績は、対前年で増収増益(※)、対計画では減収増益(※)
※経常利益段階
- 営業利益率は9.6%と若干の未達、ROEは5.4%と大幅に低下(※)
※グループ会社の事業停止に伴う繰延税金資産の取崩しによる
- 自己資本比率は60%以上と健全な財務体質を堅持
- 動力事業、整備事業をはじめとする主力事業の売上増が牽引
(新型コロナウイルス感染症拡大の影響は軽微)
- 新規事業など不採算事業の「選択と集中」に課題が残る
- 足元の業績・財務体質などを総合的に勘案のうえ、FY19は
中間配当5円を実施、期末配当は8円を予定
(当初年間12円配当を予定)
(但し、第55回定時株主総会の承認を前提)

2019年度業績サマリー

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	増減額
売上高	13,818	14,742	+924
営業費用	12,462	13,320	+858
営業利益	1,356	1,422	+65
営業利益率 (%)	9.8%	9.6%	▲0.2pt
経常利益	1,352	1,446	+94
当期純利益 ¹	877	498	▲379

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	増減額
営業キャッシュフロー	1,378	1,717	+339
投資キャッシュフロー	▲1,153	▲1,248	▲94
フリーキャッシュフロー	224	469	+244
財務キャッシュフロー	▲473	▲457	+16
EBITDA ³	2,116	2,158	+42

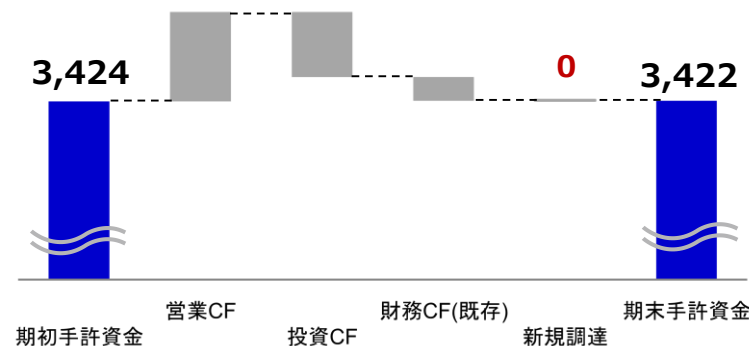
連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	増減額
総資産	13,675	14,699	+1,023
有利子負債残高	558	294	▲264
自己資本	9,123	9,372	+249
自己資本比率 (%)	66.7%	63.8%	▲2.9pt
ROE (%) ²	10.0%	5.4%	▲4.6pt

(手元資金増減)

(単位：百万円)



自己資本比率50%以上

- 1 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算
- 2 (当期純利益*) / (期首・期末平均自己資本)
* 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算
- 3 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

2019年度事業別売上高（前年度対比）



<事業別売上>

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	増減額	特記事項
動力事業	5,475	5,776	+301	需要(供給機会)+4.4% 供給率は前年並み(61.9%)、便単価+2.4%
整備事業	3,925	4,120	+194	自動手荷物預入機設置工事の増加、台風本復旧作業の増加等
施設事業	2,240	2,361	+121	NRT別件工事の増加等
セキュリティ事業	608	727	+119	機器設置工事(スマートレーン)の増加
フードシステム事業	453	372	▲80	案件の減少等
新規事業	558	614	+56	小売電気事業の売上増等
GSE等販売事業	556	769	+212	PBR販売の受注(中部空港)
合計	13,818	14,742	+924	

堅調な航空需要を背景に、航空会社、空港会社からの売上高は増加。また、昨年度の台風21号の本復旧作業(関空)により整備の売上高が増加。新規事業の小売電気販売、ビジネスジェット支援の2事業も売上高が増加。GSE等販売はPBR販売により売上高が増加。新型コロナウイルスの影響は売上▲77百万円程度(動力事業)。

2019年度営業費用（前年度対比）

(単位：百万円)

	2018年度	2019年度	増減額	特記事項
労務費	4,656	5,064	+407	従業員数 前期末721人→今期末748人
減価償却費	752	738	▲14	動力事業の投資遅れ
電気代	885	906	+21	増収に伴う電力使用量増加等
その他	6,169	6,612	+443	原材料外注費の増加+271百万円、販売管理費の増加+224百万円
合計	12,462	13,320	+858	

事業の拡大を支えるために人員拡充を図り、労務費は増加。
設備投資は当初想定より遅れ、FY19は抑制的。
結果、減価償却費も対前年で減少。
動力事業の増収に伴う電力使用量増加により、電気代が対前年で増加。
販売管理費は、プロジェクト推進に伴う役務費増、人員増等により増加。

2019年度業績サマリー(計画対比)



連結損益計算書

(単位：百万円)

	2019年度 計画	2019年度 実績	増減額	特記
売上高	14,800	14,742	▲57	動力+101、整備+197、施設+221、セキュリティ+132、フード▲127 新規▲164、GSE等▲506
営業費用	13,500	13,320	▲179	労務費+60、電力料▲21、減収に伴う原材料費減▲272、整備維持費▲12、販売管理費+38
営業利益	1,300	1,422	+122	
営業利益率 (%)	8.8%	9.6%	+0.9pt	
経常利益	1,250	1,446	+196	
当期純利益 ¹	770	498	▲271	

【業績経緯】

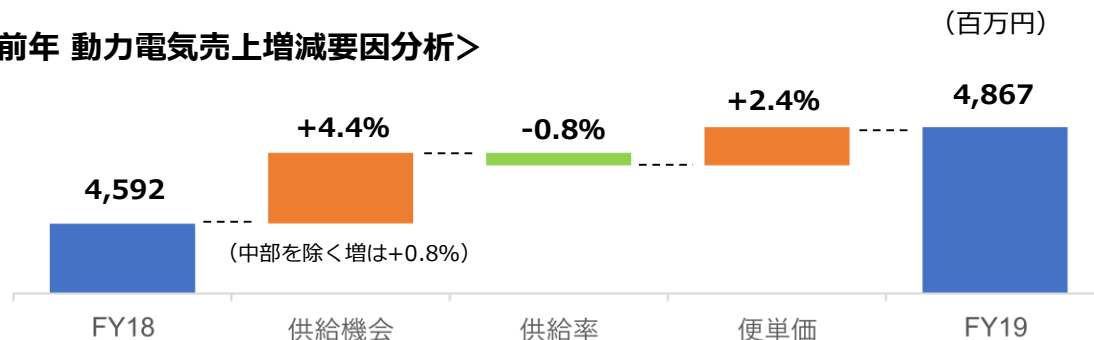
- ・ 売上 過去最高 **FY19 14,742**
- ・ 営業利益 過去最高 **FY19 1,422**
- ・ 経常利益 過去最高 **FY19 1,446**
- ・ 当期利益 過去最高 **FY17 914**
- ・ 営業利益率 過去最高 **FY17 10.6%**

台風の本復旧作業等により整備が増収、NRTをはじめとする施設事業が増収、供給時間や大型機就航の増加等により動力事業も増収と、主力事業は堅調に推移。一方でGSE等販売の案件先送りなど付帯での大幅減収により、売上高トータルは若干の未達。労務費が増加したものの、原材料費をはじめとする費用減等により、対計画では営業利益・営業利益率とも計画達成。

¹ 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

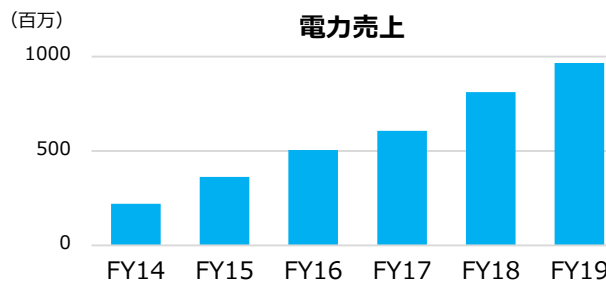
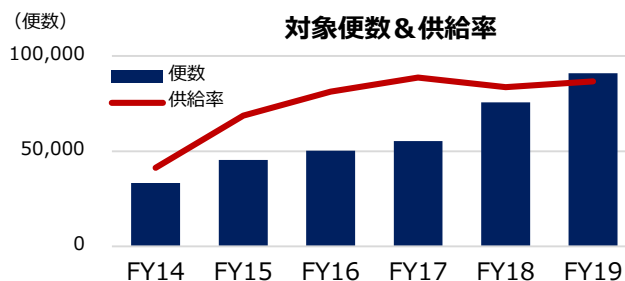
動力事業における売上高分析

<対前年 動力電気売上増減要因分析>



2018年10月より中部空港における動力事業の展開と、供給時間増加や大型機の就航増加により、動力電気収入は対前年+6.0%となった。供給率は61.9%と▲0.5Pt低下。便単価は+2.4%向上。

<787・A350向け対応状況> (中部を除く)

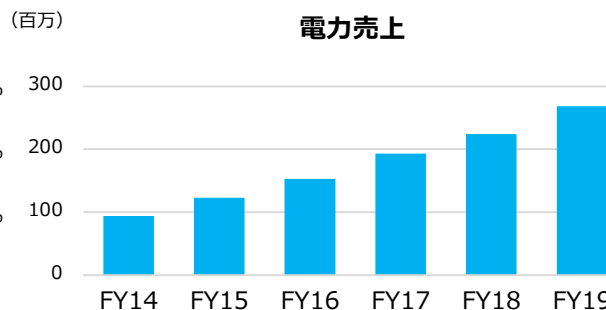
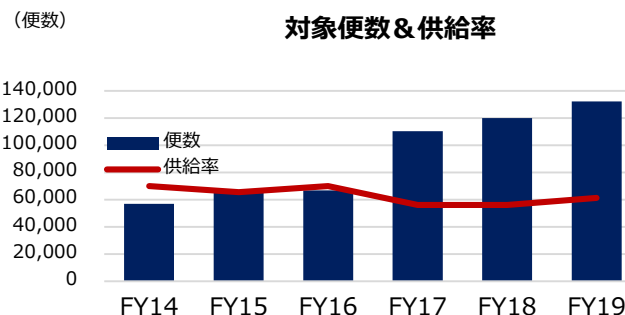


大容量設備 (180kVA) の配備

- 移動機材：6拠点配備済 (合計30台配備)
- 固定設備：
 - NRT (36台)
 - HND (47台)
 - ITM (6台)
 - KIX (12台)
 - FUK (8台)
 - OKA (7台) 設置済

(2019年度末現在)

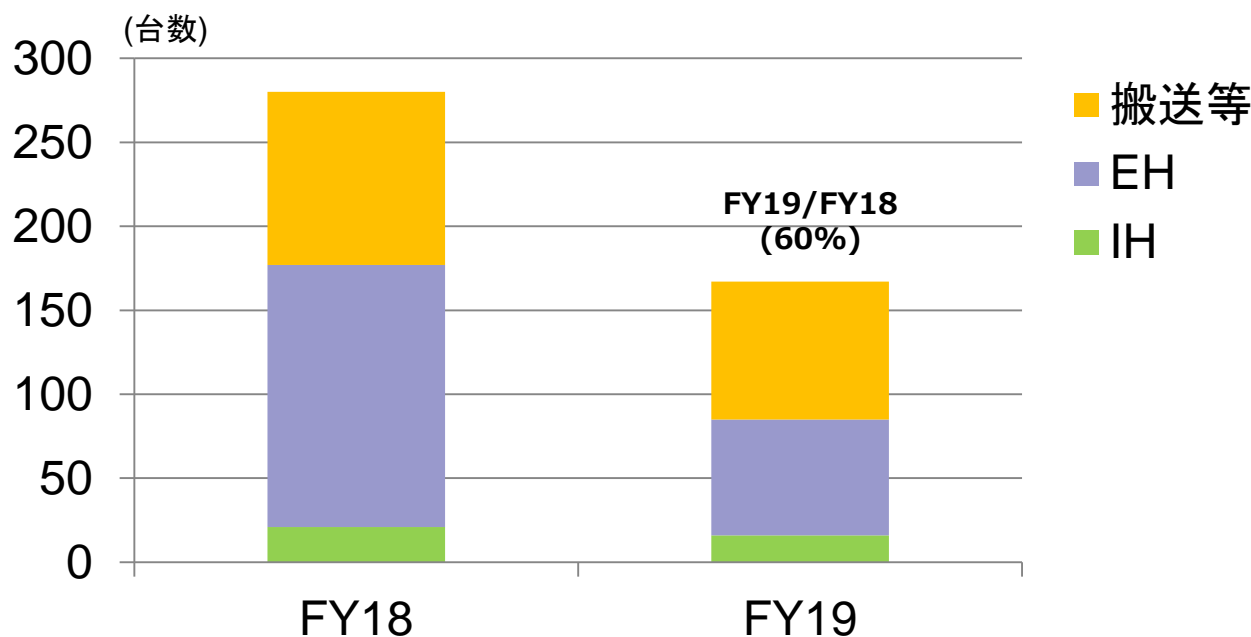
<LCC向け対応状況>



LCC向け施策

- 外航を中心とした便数増加により売上は増加するも、供給率は伸び悩み。供給率向上に向けた抜本的解決策の立案・実行は次期中期経営計画での重要課題。

フードカート販売状況



2019年度再加熱カート(IH及びEHカート)について病院大型新規案件が1件あったものの、予定されたリピート案件が先送りとなり、販売台数が対前年を大きく下回った。

(件数/台数)	FY18	FY19	増減	備考
病院 (内リピート案件)	8件/150台 (8件/150台)	7件/60台 (5件/30台)	▲1件/▲90台 (▲3件/▲120台)	FY18大型リピート 125台更新あり
病院以外 (内リピート案件)	18件/130台 (7件/99台)	21件/107台 (17件/88台)	+3件/▲23台 (+10件/▲11台)	
合計 (内リピート案件)	26件/280台 (15件/249台)	28件/167台 (22件/118台)	+2件/▲113台 (+7件/▲131台)	

EH：チルド帯での保冷機能を備えた再加熱カート

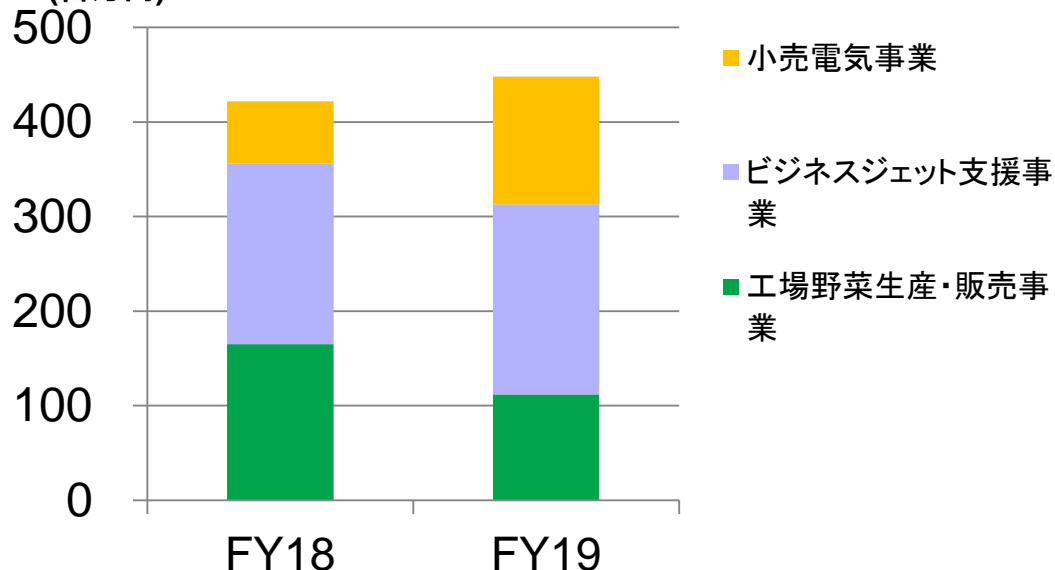
IH：電磁誘導加熱(Induction Heating)技術を応用したチルド庫対応(再加熱冷蔵室)再加熱カート

新規事業売上高

【付帯事業】



(百万円)



BJ支援実績	FY18	FY19
定期駐機契約数	5機	4機
臨時(SPOT)駐機	71機	94機
クリーニングサービス	35回	37回
トローリングサービス	432回	498回
N2供給サービス	40回	51回
O2供給サービス	—	37回
ウォーターサービス	—	61回
ラバトリーサービス	—	69回

レタス販売実績	FY18 4Q	FY19 4Q	FY18 TTL	FY19 TTL
業務用	20,725kg	21,516kg	110,057kg	83,496kg
店舗販売	38,216袋	39,829袋	179,807袋	139,580袋

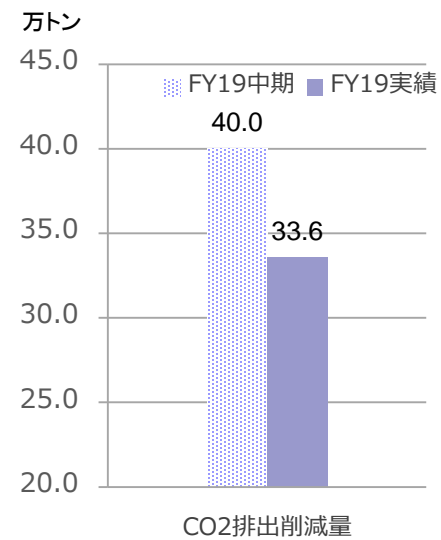
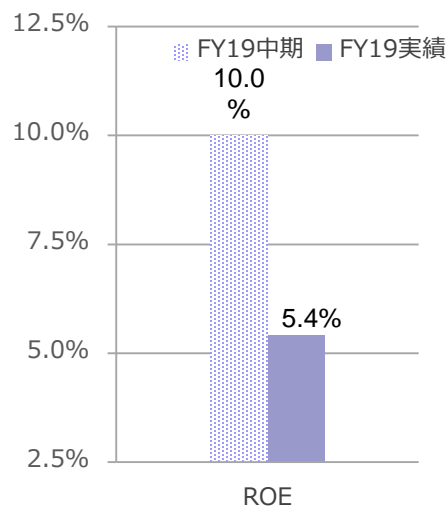
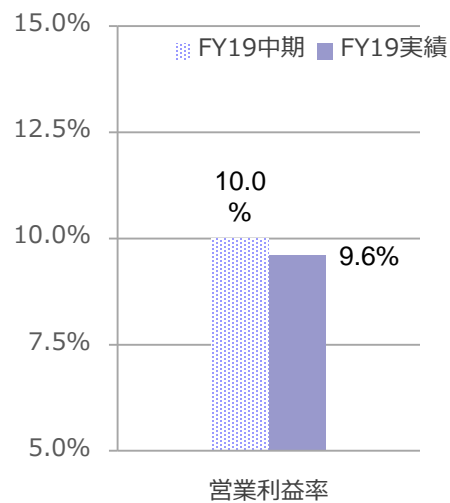
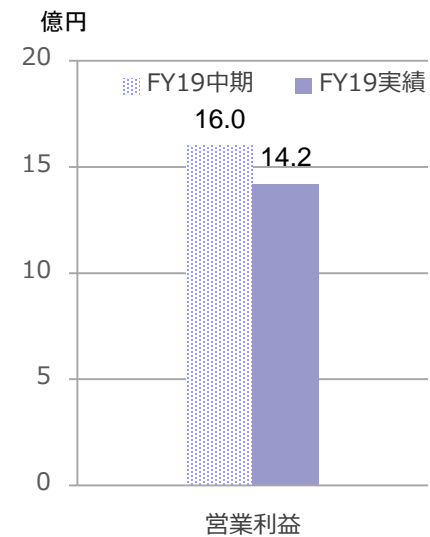
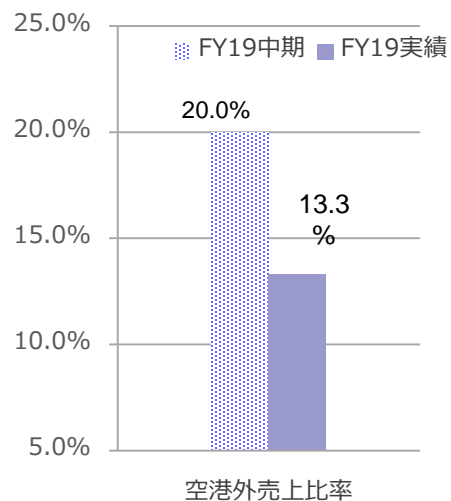
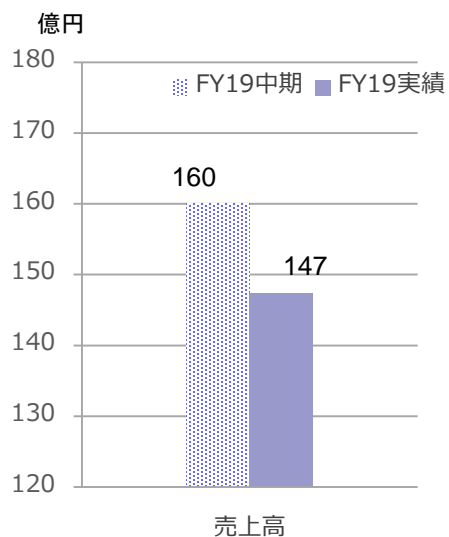


小売電気販売状況

種別	契約合意件数		見積完了件数		見積依頼件数	
	FY18期末	FY19 期末	FY18期末	FY19 期末	FY18期末	FY19 期末
高圧	71	137	550	946	706	959
低圧	1,065	1,597	1,950	3,451	2,469	3,863



FY19実績の中期経営計画値との比較



2020年度での当面の経営方針

● 2020年度 通期業績予想について

- ✓ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う航空需要の大幅低下により、現段階では業績に与える影響について未確定要因が多いことから、業績予想を合理的に算定することが困難であると判断し未定。
- ✓ 業績予想の算定が可能になり次第、速やかに開示予定。

2020年度の体制強化への取り組み

- 即効性のある収支改善施策と将来も見据えた抜本的なコスト構造の見直しなどにより安定的な事業継続への体制強化を推進する

業務構造改革推進委員会の設置（体制強化）

スコープ；タスクチームとの連携のうえで、新型コロナウイルスへの対応に加え、感染影響脱却後を見据えた現業部門における業務の構造的な課題抽出とその抜本的解決を目的

タスクチームの設置（コスト抑制）

スコープ；緊急かつ即効性ある収支改善を目的とした各種検証、施策実行

＜人的対応＞

- ・ 余剰工数精査と業務量に応じた適正人員の再配置
- ・ マルチスキル化促進による生産性向上
- ・ 短時間勤務制度の導入
- ・ 不採算分野での供給工数削減(動力)
- ・ 一時帰休制度の導入

＜コスト抑制＞

- ・ 人件費における変動費抑制
- ・ 外部委託の圧縮(内製化)
- ・ 管理可能経費の徹底抑制
- ・ 原材料調達時のさらなる変動費圧縮、賃借料を始めとする固定費削減

規模イメージ

20億円

財務対応の実行（手元流動性の確保）

- ・ 新規資金調達(上期中を目的)
- ・ コミットメントラインの設定

規模イメージ

20億円

- ・ 設備投資の大幅抑制

規模イメージ

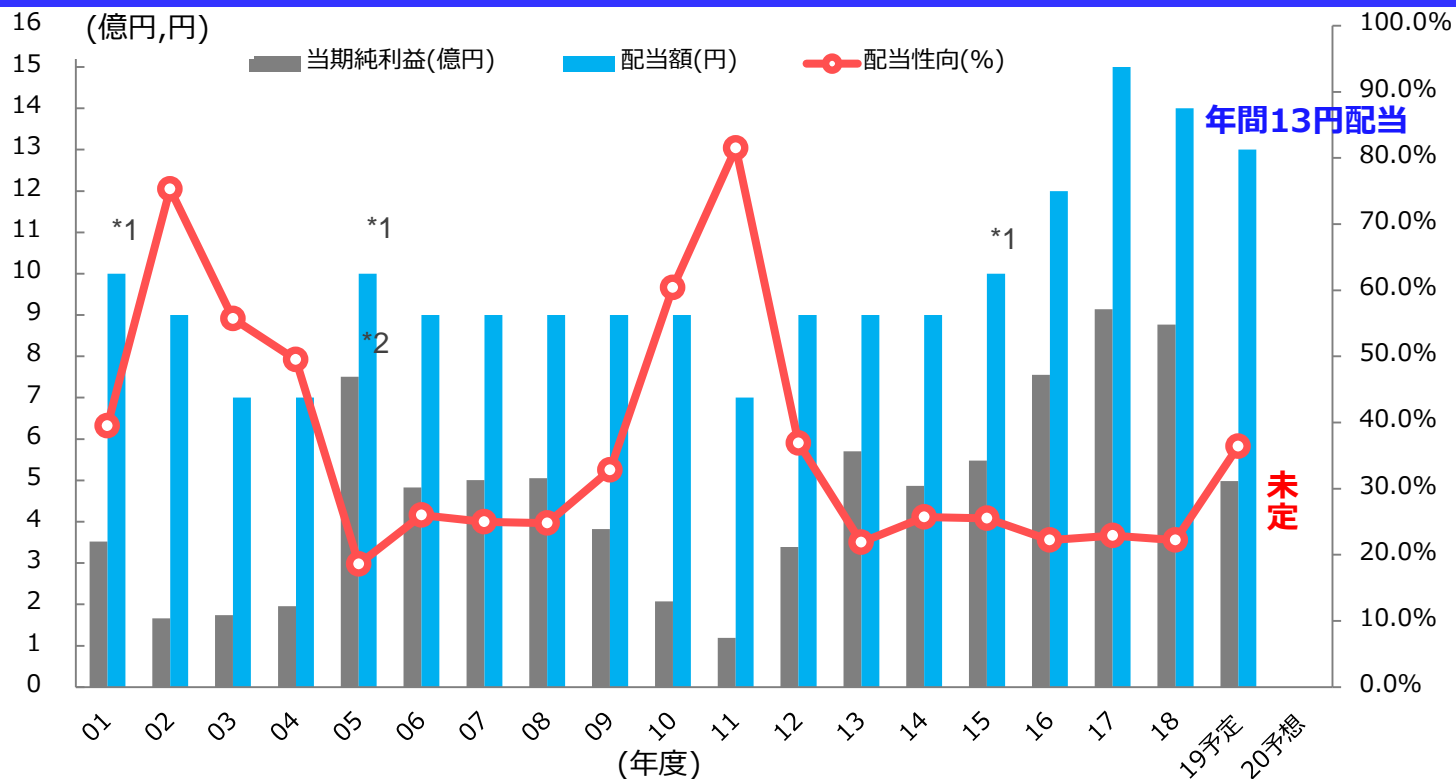
70%削減



(参考資料)

配当の実績と予想

FY19は実施済の中間配当5円、期末配当8円の年間13円を予定。
 (期初予想は12円配当予定)
 FY20は現段階では業績予想の合理的算定が困難なため、年間の配当予想も未定。



1 配当額には、2001年度は上場記念(1円)、2005年度には創立40周年記念(1円)、2015年度には創立50周年記念(1円)の記念配当を含む
 2 2005年度の当期利益には、年金改訂・代行返上に伴う特別損益+320百万円を含む。2005年の当期利益は747百万円。

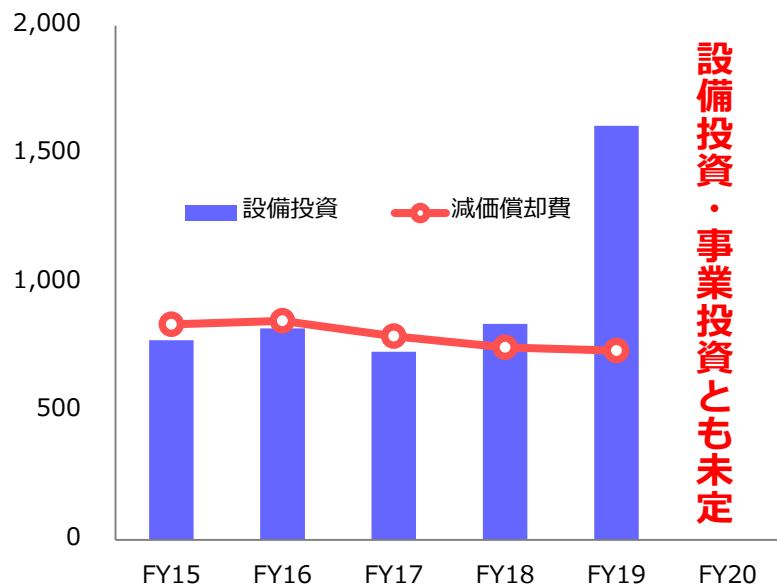
<設備投資・事業投資>

FY20の設備投資・事業投資は、FY20事業計画が未確定のため、現時点では未定。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大への対応のため、必要最低限以外の投資は後ろ倒し(投資の大幅抑制を実行)。

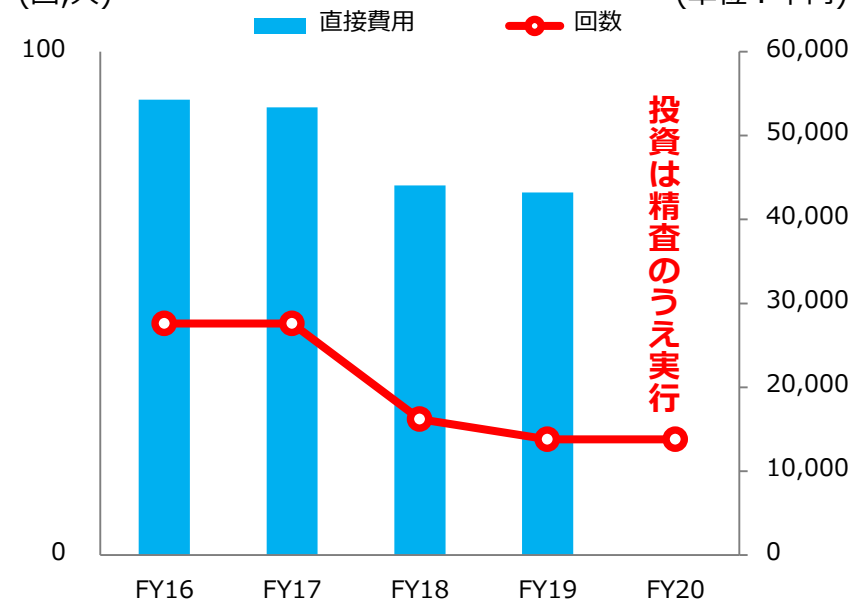
<教育訓練投資>

FY19の教育訓練費実績(直接費)は43百万円。FY20は、さらなる技術教育の充実を図るとの基本方針は変えないものの、新型コロナウイルスによる影響も考慮しつつ、実際の投資規模(直接費)はきちんと精査のうえ進める予定。

(単位：百万円)



(回,人)



- ◆ 商号 株式会社エージーピー
英名：AGP CORPORATION *AGP: Airport Ground Power
(日本空港動力株式会社から商号変更：2000年9月1日)
- ◆ 設立 1965年12月
- ◆ 本社 東京都大田区羽田空港一丁目7番1号 空港施設第2 総合ビル
- ◆ 資本金 20億3,875万円
- ◆ 主要株主 日本航空株式会社 (33.3%)
日本空港ビルディング株式会社 (26.8%)
ANAホールディングス株式会社 (20.0%)
- ◆ 株主数 1,310名 (2020年3月31日現在) ←FY18末 1,121名
- ◆ 従業員数 748名 (グループ計2020年3月31日現在) ←FY18末 721名
- ◆ 拠点 3支社、5支店、1工場、2出張所
成田支社、羽田支社、関西支社、新千歳支店、中部支店、
大阪支店、福岡支店、那覇支店、横芝光工場
神戸出張所、広島出張所

企業理念

AGPグループは、技術力を極め、環境社会に貢献します。

- ・ 環境に優しく、安全で豊かな社会の実現に貢献します
- ・ お客様に選ばれる技術・サービスを誠実に提供し企業価値を高めます
- ・ 燃える挑戦心を持った社員とともに成長します

長期ビジョン2025(骨子)

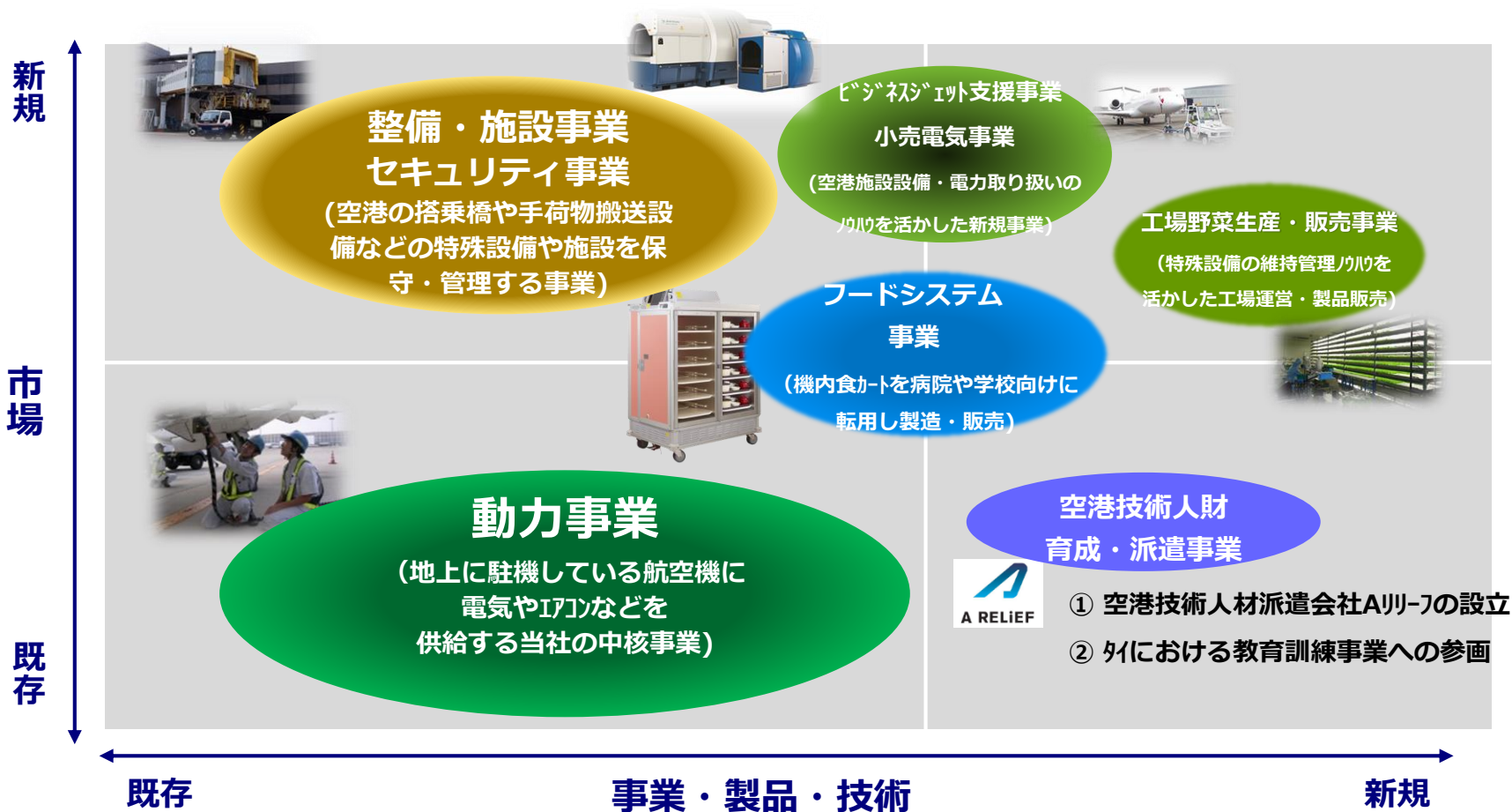
(2014.12.25策定)

AGPグループは、高い技術力と環境社会への貢献によって、空港インフラ機能を担う信頼される企業になるとともに、空港の安全を守るために培われた技術を日本中の街へ、さらには海外へとお届けします。これにより、今後10年間で

- ・ 売上200億円、営業利益率10%以上を安定的に達成できる企業になります
- ・ 空港外の売上比率3割以上を目指します
- ・ エコ・エアポートの実現を通してGPU利用を促進することにより、主要空港のCO₂排出量を13.5万トン削減し、地球の温暖化防止に貢献します

(注) GPU : Ground Power Unit (地上動力供給装置)

空港に軸足を置いた事業運営を行いつつ、空港で培われた高い技術力を活かせる領域や周辺事業を開拓し、空港外や海外へ事業領域を拡大



- ▶ 関連するSDGsを意識したESG経営を継続実施
- ▶ 特に“環境社会への貢献”に関する施策を重点的に取り組むほか、ダイバーシティの推進とガバナンス経営も継続的に推進

ESG経営における課題

Environment

- 環境社会への貢献

Social

- ダイバーシティの推進

Governance

- ステークホルダーとのコミュニケーション推進
- コンプライアンス経営の推進
- リスクマネジメント体制の強化

重点施策

- 航空分野での温室効果ガス排出の削減
- 環境配慮型ビジネスの展開強化
- 働き方改革の推進
- 女性・シニアの活躍推進
- 外国人材の育成と活用の推進
- 高齢者雇用の促進
- 空港技術人材の育成強化
- 経営の透明性、公正性を高めるIR活動
- コンプライアンス・公正な事業活動推進
- 新規事業・海外事業およびBCPIに基づくリスクへの確実な対応

関連するSDGs目標



当社の技術力

機械、電気・制御系の幅広い基礎知識・技能、専門資格を保有。

● 国家資格

資格名称	保有者
電気主任技術者	43
電気工事士	454
電気工事施工管理技士	71
管工事施工管理技士	32
エネルギー管理士	23
ボイラー技士	143
高圧ガス製造保安責任者 (冷凍保安責任者)	270
危険物取扱者	366
X線作業主任者	115
消防設備士	88
建築物環境衛生管理 技術者	28
昇降機検査資格者	15
衛生管理者	35

● 労働安全技能講習資格 特別教育受講 特殊運転免許証

資格名称	保有者
酸素欠乏・硫化水素危険作 業主任者	321
有機溶剤作業主任者	101
特定化学物質等作業主任者	35
小型移動式クレーン 運転技能	206
フォークリフト運転技能	385
高所作業車運転技能	451
玉掛技能	319
足場組立作業主任者	100
ガス溶接技能	308
アーク溶接特別教育	401
研削といし特別教育	425
大型自動車運転免許	386
けん引自動車運転免許	59

● セキュリティ機器メーカーライセンス

資格名称	保有者	
X線検査装置	Smiths Heiman	18
	IHI	20
	Astrophysics	24
爆発物検知装置 (EDS)	Smiths Heiman	22
	L3	8
	Morpho Detection	6
	NUCTECH	5
金属探知器	CEIA	32
危険物検知ゲート	Evolv Edge	11
爆発物検知装置 (ETD)	Smiths Heiman	7
	Morpho Detection	49
	Implant Sciences	9
	Rapiscan system	9
スマートレーン	Smiths Heiman	11
ボディスキャナ(AIT)	L3	4
	Rohde& Schwarz	13
セルフバッグ	ICM	3

個人平均資格取得数：約9資格* / 人

* 2020年3月末現在

(その他)

CO₂ 排出量の削減

(単位 : t-CO₂)

(t-CO ₂)	FY18		FY19	
	削減目標	削減実績	削減目標	削減実績
CO ₂ 削減量 *1	325,000	316,887	329,505	335,878

*1 GPUの利用によるAPUからのCO₂排出削減量

対象空港 : CTS・NRT・HND・NGO・ITM・UKB・KIX・HIJ・FUK・OKA

エコ・エアポート活動 取り組み実績 (全支社・支店)

	FY17 活動実績	FY18活動実績	FY19活動実績
活動項目 件数 *2	59 件	61件	113回

*2 1つの活動項目を1件とカウント

例) 1つの支店で「エプロン清掃活動」を2回実施しても1件とカウント

環境への取り組み 事例紹介

エコ・エアポート活動

※「エプロン清掃」と「エコドライブ」は、全支社・支店 実施項目



CTS 着陸帯クリーン活動



NRT エコキッズ(GPU見学)
(成田国際空港主催)



HND 環境美化活動



NGO セントレア島内クリーンアップ大会



ITM ごみゼロキャンペーン



KIX 第2ターミナルエプロン清掃



FUK エプロン清掃



OKA ちゆら島環境美化全県一斉清掃



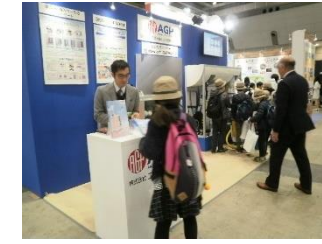
しながわエコフェスティバル
(羽田空港広報連絡会)



国際都市おおたフェスティバル



エコプロ2019出展
(東京ビッグサイト)



エコプロ2019出展
(東京ビッグサイト)

当資料に記載されている事業名は、弊社の連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備事業と施設事業をまとめて整備事業、セキュリティ事業、フードシステム事業、新規事業、GSE等販売事業をまとめて付帯事業として報告しています。

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

お問合せ先



株式会社エージーピー 経営企画部

電話: 03-3747-1638

FAX: 03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp/>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)